



オンライン診療について

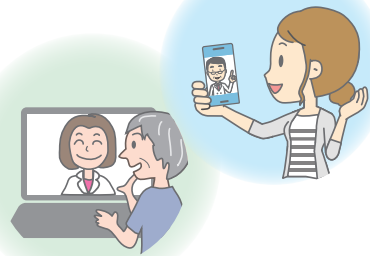
第38回

コロナ禍でこの1年ちょっと、いろんな変化がありました。お子さんがオンライン授業を経験された方もみえると思います。私たちもオンライン会議が増えました。ただ、すでに知っている人とオンラインで話すのはあまり問題なくても、新しい人と知り合うには画面越しではなかなか難しく感じることもあります。ポストコロナでは、オンラインの便利なところは取り入れつつ、やはり直接会うことも大事にしたいと思っています。

医療についても、「オンライン診療」が注目されていますね。その名の通り、スマホやパソコンで医療機関と患者さんをつないで画面越しに診療を行います。これまでも電話診療はありましたが、電話ではみえない、相手の顔や表情、ちょっとした協力で身体の症状を「ある程度」把握することができます。現在、三重病院では、心療科とアレルギー科で一部にオンライン診療を取り入れています。

実際にオンライン診療を行ってみて感じるのは、便利な面もあるけれども、必ずしも十分な診療が出来ているとは限らない、ことです。お子さんが病院よりもリラックスした姿をみせてくれるのは微笑ましく思いますし、保護者の方もスマホの扱いに手慣れていて会話については問題ないことも多いです。でも、聴診器をあてて心臓や肺の音を聴くことは出来ませんし、肌がどの程度乾燥しているのかな、など触って確認することも出来ません。ちょっとしたお子さんの仕草や何気なく話した雑談から治療のヒントを得ることも多い一方、オンライン

の画面にお子さんばかりを映すわけにもいかず、やはり、外來で直接お話の方が伝わりやすい、と感じています。



また、病院での診療は、医師だけではなく看護師、臨床心理士、検査技師、レントゲン技師、管理栄養士、薬剤師、リハビリ、児童指導員、ケースワーカーなど多くの職種が関わりますので(実際に患者さんとお会いしていなくても、陰で支えています)、これをオンラインに活かすことは困難です。

利便性があるのは確かですので、病院としてどのようにオンライン診療を活用していくといいのか、今は考えながら進めています。例えば、臨床研究に参加されている方に、必要事項だけを確認したいときなどにはオンラインの利便性が生きるでしょう。

もうひとつ、当院では初診のオンライン診療はしていませんが、初診に関する注意事項について、日本医学会連合から提言がでていきますので、興味のある方はご参照ください(患者向けは14ページ以降)。



(臨床研究部長 長尾 みづほ)
<https://www.jmsf.or.jp/uploads/media/2021/06/20210603172150.pdf>

5病棟の生活のひとコマ 65

今年も七夕の季節がやってきました。ということで、5病棟では療育の一環として患者さんと一緒に短冊を書きました。スタッフと願い事を考えながら、みなさん一生懸命に短冊を書く姿がとても印象的でした。また、短冊だけでなく、七夕飾りも制作しました。さまざまな色や形の紙を組み合わせる七夕飾りは、個性が溢れていてどれも素敵でした。患者さんが作った短冊や七夕飾りを笹に飾るととても綺麗で感動しました。これからも5病棟では、患者さんに季節を感じてもらえるような療育を積極的に行っていきたいと思っています。



(児童指導員 森 日奈子)

医療福祉相談室より

ヘルプマークをご存知ですか？

ヘルプマークとは、外見から分からなくても援助や配慮を必要としている障がいのある方や病気の方などが、日常生活や災害時などで困ったときに周囲に示し、支援や理解を求めやすくするマークです。



三重県庁地域福祉課またはお住まいの市町の福祉担当窓口等でお一人様一個、必要な方に無料で配布しています。

詳しくは、三重県庁地域福祉課またはお住まいの市町の福祉担当窓口までお問い合わせください。
 (ソーシャルワーカー 坂口 茉衣)